



竹の里だより



2学期末に学校アンケートを保護者・教職員・児童を対象に実施致しました。その結果をまとめましたのでお知らせします。お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。

(小数点以下四捨五入のため、4観点の合計は100%にはなっていません)

1 アンケートの集計結果

保護者 質問項目	よく 出来ている	大体 出来ている	あまり 出来ていない	出来て いない
お子さんは、楽しい学校生活を送っていますか。	40	53	6	1
お子さんは、進んで考えたり表現したりして、学習していると思いますか。	20	59	20	0
お子さんは、ご家庭で進んで読書に取り組んでいますか。	14	25	42	19
お子さんは、ご家庭で自分の思いや考えを進んで伝えていきますか。	34	56	10	0
お子さんは、毎日家庭学習（漢字・計算・音読など）に取り組んでいますか。	40	45	13	2
お子さんは、相手や場所にふさわしい言葉づかいができていますか。	13	67	19	1
お子さんは、家庭での約束を守っていますか。	19	62	16	2
お子さんは、明るく元気な挨拶ができていますか。	22	54	23	1
お子さんは、友達のよさを認め、友達を大事に思いながら学校生活を送っていると思いますか。	31	64	5	0
お子さんは、日頃から体を動かし、進んで遊びやスポーツに取り組んでいますか。	41	36	17	5
お子さんは、いじめをされたり見たりしたときに、相談をしますか。	24	58	16	2
お子さんに、よいところを伝えていますか。	26	62	12	0
お子さんは、家庭で歯を磨く習慣が身に付いていますか。	42	46	11	1
お子さんは、早寝・早起き・朝ごはんを大切にして、規則正しい生活ができていますか。	33	49	15	2
学校だより、学級だより、ホームページ等で学校の様子がよく分かりますか。	23	64	11	2

教職員 質問項目	よく 出来ている	大体 出来ている	あまり 出来ていない	出来て いない
子どもたちは、学校で楽しく活動していますか。	14	79	7	0
子どもたちは、進んで考えたり表現したりして、主体的に学習していますか。	4	71	25	0
子どもたちは、帯タイムなどを活用し、進んで読書に取り組んでいますか。	19	62	19	0

子どもたちは、話し合い活動に進んで取り組み、自分の考えを広めたり深めたりすることができていますか。	11	74	15	0
子どもたちは、毎日家庭学習に取り組んでいますか。	12	76	12	0
子どもたちは、相手や場所にふさわしい言葉づかいができていますか。	0	43	46	11
子どもたちは、学校のきまりや社会のルールを守っていますか。	4	61	29	7
子どもたちは、明るく元気な挨拶ができていますか。	14	36	43	7
子どもたちは、友達のよさを認め合い、友達を尊重しながら学校生活を送っていますか。	11	71	14	4
子どもたちは、日頃から体を動かし、進んで遊びやスポーツに取り組んでいますか。	25	57	18	0
子どもたちは、いじめをされたり見たりしたときに、相談をしますか。	19	78	4	0
子どもたちに、よいところを伝えていますか。	32	54	14	0
子どもたちは、歯を磨く習慣が身に付いていますか。	0	70	30	0
子どもたちは、早寝・早起き・朝ごはんを大切にして、規則正しい生活ができていますか。	4	56	41	0
学級だより、ホームページ等で学校の様子を発信していますか。	11	57	21	11

児童 質問項目	そう思う	大体 そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない
クラスで、一緒に勉強したり遊んだりするのは楽しいですか。	66	29	4	1
授業中は、よく考え、進んで発表していますか。	32	39	25	4
学校でも、お家でも、進んで読書に取り組んでいますか。	31	27	25	17
授業の中で、友達と進んで話し合うことができていますか。	54	34	10	2
毎日、宿題を忘れずにできていますか。	56	29	11	3
友達や家族、地域の方に丁寧な言葉づかいで話していますか。	49	40	10	1
学校のきまりやクラスの約束、お家での約束を守っていますか。	49	43	7	1
明るく元気なあいさつができていますか。	43	33	20	4
友達のよいところを見つけ、友達のことを大事に思いながら、仲よく活動していますか。	65	29	4	2
学校や放課後に体を動かし、進んで遊びやスポーツに取り組んでいますか。	53	26	16	5
いじめをされたり見たりしたときに、どの先生でも相談してよいことを知っていますか。	72	17	7	4
自分には、良いところがあると思いますか。	42	41	10	7
食事の後、歯をしっかりと磨くことができていますか。	66	24	7	4
早寝・早起き・朝ごはんができていますか。	46	37	13	5
お家の人に、連絡帳や学校のおたよりを見せていますか。	66	22	9	3

今回のアンケート結果を振り返り、学校・家庭・地域と連携して、竹の里小学校の子どもたちの成長を支えていけるよう、取組を進めていきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

2 良かった点

安心して自らの力を高められる学校



質問項目	そう思う	大体 そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない
お子さんは、楽しい学校生活を送っていますか。(保護者)	40	53	6	1
子どもたちは、学校で楽しく活動していますか。(教職員)	14	79	7	0
クラスで、一緒に勉強したり遊んだりするのは楽しいですか。(児童)	66	29	4	1

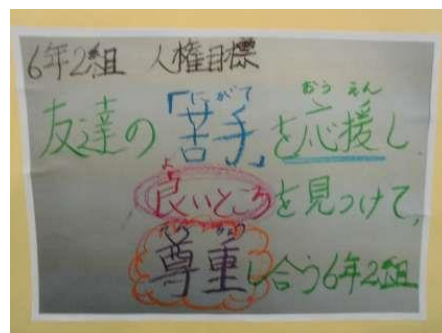
「楽しい学校生活を送ることができているか」という質問に対して保護者・教職員・児童ともに9割以上が肯定的な回答をしています。「楽しい」「安全」は学校にとって最も基本的なことであり、多くの子どもたちがそう感じていることは非常にうれしく思います。昨年度の一次統合で友達の幅が大きく広がりました。友達と時には個性をぶつけ合うこともあります。広がった友達の輪を大切にしながら生き生きと遊んだり学んだりする姿が学校の中でたくさん見られます。引き続き地域や家庭と連携しながら、「一人一人の人間性を高め 共に学び合い 希望を抱いて未来を拓く子ども」の学校教育目標実現に向けてよりダイナミックに竹の里教育を展開していきます。一方であまり楽しさを感じられていない児童が少数名いるのも事実です。そうした子どもたちの心の声も大切に受け止めていきたいと考えています。



自己肯定感の高まりを目指して

質問項目	そう思う	大体 そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない
お子さんに、よいところを伝えていますか。(保護者)	26	62	12	0
子どもたちに、よいところを伝えていますか。(教職員)	32	54	14	0
自分には、良いところがあると思いますか。(児童)	42	41	10	7

子どもたちに「良いところ」を伝えられているかという質問に対して保護者・教職員ともに9割近くが肯定的な回答をしています。また子どもたち自身も8割以上が自分には「良いところがある」と感じています。自己肯定感が高い子どもの特徴の一例として「ポジティブ」「自分に自信がある」「失敗をめげない」「相手の存在を認めたり肯定したりできる」などが挙げられ、子どもの成長には、心の土台となるこの「自己肯定感」をしっかりと持っていることが極めて重要となってきます。学校でも引き続き「授業」「学校行事」「日常の場面」あらゆる教育活動を通して、子どもたち一人一人の肯定的な気付きを促していくことを大事にしていきます。



3 今後の課題と改善点

読書活動から生きる力を身に付けていく

質問項目	そう思う	大体 そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない
お子さんは、進んで読書に取り組んでいますか。(保護者)	17	25	39	19
子どもたちは、帯タイムなどを活用し、進んで読書に取り組んでいますか。(教職員)	14	68	14	4
学校でも、お家でも、進んで読書に取り組んでいますか。(児童)	31	27	25	17

上記の質問に対して、保護者は6割近く、児童は5割近くが「あまり出来ていない」「出来ていない」と回答しています。校内ではよく図書館を利用して読書に親しんでいる子とそうでない子の二極化が見られます。文部科学省のHPに掲載されている「子どもの読書活動推進の取組～子どもの読書活動の推進について～」にも、『読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。』と書かれています。学校では図書委員会や新聞委員会による活動や、読書まつりの活動を進めています。また、50冊読むと校長先生からしおりをもらうことができます。子どもたちは読んだ本の紹介や感想の交流をとても生き生きと校長先生としています。こうした活動を通して、子どもたちが本に触れる機会を今後も増やしていきたいです。



美しい言葉

質問項目	そう思う	大体 そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない
お子さんは、相手や場所にふさわしい言葉づかいができていますか。(保護者)	13	67	19	1
子どもたちは、相手や場所にふさわしい言葉づかいができていますか。(教職員)	0	43	46	11
友達や家族、地域の方に丁寧な言葉づかいで話していますか。(児童)	49	40	10	1

「相手や場所にふさわしい言葉づかいができていますか」という質問に対して児童は9割近くが肯定的な回答をしているのに対し、保護者は2割、教職員は6割近くが否定的な回答をしており、その大きな差が気になります。学校での様子を見聞きしていると、職員室に用事があるときの「〇〇先生いらっしゃいますか」や地域や目上の方にお世話になったときの「ありがとうございました。またよろしくお願いします」と相手や場所に合った言葉づかいができて子どもたちがたくさんいます。その一方、深く考えもせず、ちょっと腹立たしいことがあるだけで相手を傷つける言葉を不用意に発する場も見られます。相手の心を大きく傷つけてしまうことにもなるので決して許されることではありません。子どもたちはテレビやゲーム、周りの大人が使う言葉を吸収して語彙を増やしていきます。見本となる大人が人を悲しませてしまう言葉や傷つける言葉に敏感になり、時や状況にふさわしい言葉を遣っていくことが大切です。また子どもたちにとって望ましい言語環境を整えていくことは学校教育でも家庭教育でも重要です。